

# アンコール・ワット、アンコール・トム観光

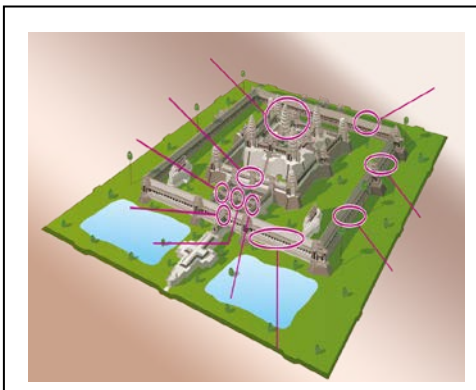
アンコール・ワット、アンコール・トムは、カンボジアの文化を象徴する 12 世紀に建立された石造りの古代寺院である。ワットは「寺院」を意味し、アンコールは「それが集まる王都」を意味すると、当日案内を請うた日本語ガイドからきいた。最初はヒンズー教を信じる人たちによって建てられたが、後には仏教寺院として使われたようである。アンコール・トムは、ある時期、密林の中に沈んでしまい、最近になって再発見されている。これらの素晴らしい寺院を擁するカンボジアは、1970 年代にポルポト政権によって知識階層(学者、医者、教師、僧侶等)の人々が 100-200 万人も虐殺され、次世代を育てる人材が欠損した中で、国を再建しつつある。私たちが宿泊した、アンコール・ワット近くのホテルに隣接した、国ではなく NPO が運営する小学校は、午前と午後の二部制で運営されていた。この国が正常になるためには、世界の温かい援助が必要と感じた。

## <アンコール・ワット>

9 世紀初頭に成立したクメール帝国 (アンコール朝) はアンコール周辺に都城を建設して王都としていたが、12 世紀前半に即位したスーリヤヴァルマン 2 世はそれまでの都城に代わり、隣接地に新王宮を建設し、その南隣に国家鎮護のための新しいヒンドゥー教寺院を建設した。これがアンコール・ワットである。

### アンコール・ワット全図

大きさは東西 1km 程の広さがある



### 入口の両側に立つ石像群

阿修羅像

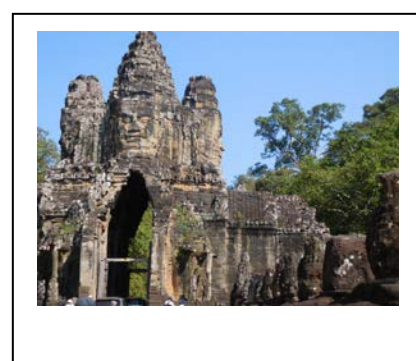


### 参観道



### 石塔 1

丸みを帯びて頂上に収束する塔が密林に映える



### 石塔 2



### 石塔と参観通路



素晴らしい回廊がある

リズムを感じさせる女神像が秀逸

戦いの絵物語



## <アンコール・トム>

アンコール・トム (*Angkor Thom*) は、アンコール遺跡の1つでアンコール・ワット寺院の北に位置する城砦都市遺跡。周囲の遺跡とともに世界遺産に登録されている。

「アンコール」は、サンスクリット語のナガラ（都市）から来た言葉。また「トム」は、クメール語で「大きい」という意味である。

アンコール・トムは約3キロメートル四方の京城であり、幅100メートルの堀と、ラテライトで作られた8メートルの高さの城壁で囲まれている<sup>1</sup>。外部とは南大門、北大門、西大門、死者の門、勝利の門の5つの城門でつながっている。各城門は塔になっていて、東西南北の四面に観世音菩薩の彫刻が施されている。また門から堀を結ぶ橋の欄干には乳海攪拌を模したナーガになっている。またこのナーガを引っ張るアスラ（阿修羅）と神々の像がある。京城の外東西には、大洋を象徴するバライと呼ばれる巨大な人工の池がある。出典: [フリー百科事典『ウィキペディア\(Wikipedia\)』](#)

## 堀から見たアンコール・トム



## 素晴らしい3つの石塔



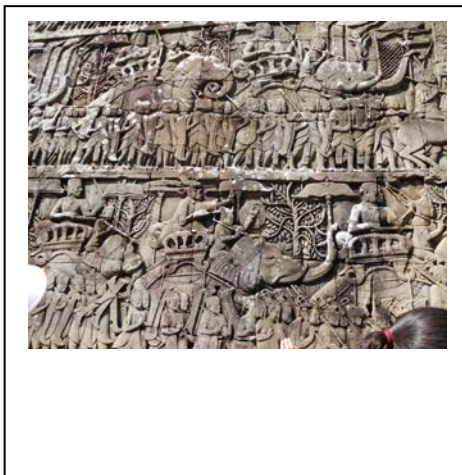
高さ 60m をこえる石塔



石塔の下まで登ることができる



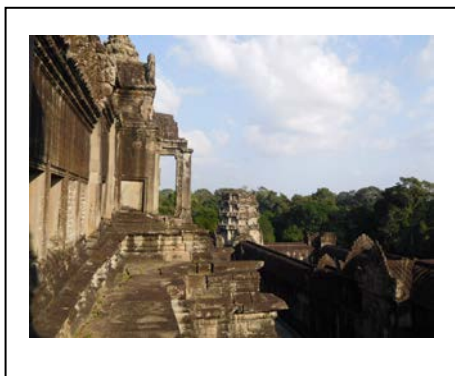
壁に刻まれた歴史物語



ジャングルに囲まれたトム



建物の上階からのパノラマ



上階にある石室



**\*ジャングルに沈みゆく夕陽を上階のベランダから眺めた。自然の織りなす別世界の自然に感動した。**